

## 校長挨拶

令和6年度がスタートし、3週間が過ぎようとしています。  
本校は昭和47年4月に当時の大村養護学校川棚分校として産声を上げました。その後、昭和56年4月に桜が丘養護学校としてのスタートを切り、本年度で43年目を迎えました。この間、本県の病弱特別支援学校として多くの卒業生を輩出してきました。県内唯一の小学部・中学部・高等部を設置する本校の児童生徒数は障害の多様化や特別支援教育への理解・啓発もあり、平成27年度全校生徒が35名でしたが令和6年4月の児童生徒数は67名とほぼ2倍になっています。本校に求められるニーズや責任は大きなものになってきています。

この4月の始業式・入学式で校長として二つのことを児童生徒や保護者の皆様に話をしました。

一つ目は4月になり新しい学校で頑張ろう、自分を変えようとすることは大切なことだと話しました。年度が替わる節目の時に自分の心と素直に向き合う気持ちを大切にしてほしいと思いました。小さな歩みでもいいので前に進むことの大切さを大事にしてほしいと思います。

二つ目は「児童生徒が桜が丘に行って良かった」「保護者の皆様が桜が丘へ行かせて良かった」という学校運営をしていきますということです。教職員がチームとなって保護者と連携し、児童生徒を真ん中に据え、教育活動を展開していく決意を話しました。

一日一日を大切にし、児童生徒の小さな成長を称賛し、日々の学びを積み上げていきたいと思います。保護者の皆様・地域の皆様、どうぞ本校の教育活動にご理解ご協力をよろしくお願い致します。

令和6年4月  
長崎県立桜が丘特別支援学校長